Spark !

飛海 ガクト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Spark!

【Nコード】

N7644M

【作者名】

飛海 ガクト

【あらすじ】

「こ、怖くない、怖くなんかないんだからな……！」
SH、Moiriaのレオンティウス殿下が、もし雷に怯えていたら。If話のレオン総受け短編集。相手はお楽しみです。実はこっそり繋がっていたりいなかったり。オールBL注意。幸せもいら。

「side:スコルピオス」 (前書き)

幼少レオン。かなり捏造注意。

「side：スコルピオス」

ひつく、ぐす、と泣く声が、彼の所にも伝わってきた。

ああ全く……雷が鳴っている筈なのに、どうして幼い弟の泣き声が聞こえる？

それが不快で不快で仕方がなかったけれども、泣きやまないその声に、流石のスコルピオスも同情を禁じ得なかった。

「……レオンティウス？」

幼い弟はどこに居る。部屋から出て名前を呼ぶ。

長く伸びる廊下の左右を見渡したけれども、泣き声の主は見えない。

戻るか、気のせいにしておくか、と思った、その時だった。

「兄様っ！」

「うおっ!？」

不意に後ろから抱き着かれた。

幸いだったのは、彼にはスコルピオス程の身長がなく、できたのが足にしがみつく事だけだったことか。

部屋から持ってきたらしい赤い毛布を握り締め、同じように赤い目を潤ませて。

彼から見れば遥かに高いであろう、スコルピオスを見上げていた。

「う……えぐ……」

「な、泣くなレオンティウス」

何に涙しているのか分からない。……いや、根本的な理由なら分かるのだが。

しかし雷が鳴っていない今、その理由はよく分からない。

自分のせいでないと思いが、と思った。

「とりあえずこっちだ。来い」

「う……うん……」

「大丈夫か？」

部屋の扉を開ける。

小さい身体に毛布を巻き付けているせいか、なかなか足が進まないレオンティウス。

それに痺れを切らしたのか、スコルピオスは彼を抱き上げ、ベッドの上に優しく下ろした。

「兄様……」

泣きそうに顔を歪める。

「待っている、扉を閉めてくるから」

「えっ、いや、いや、兄様行っちゃいやあ！」

泣き叫ぶレオンティウス。たった数メートル離れるだけなのに。

毛布を巻き付けながらも、片方の手で必死にスコルピオスの服を掴んでくる。

「しかし、レオンティウス、ドアを閉めてくるだけだから」

その瞬間、雷の音が響き渡った。

光った2秒後、ゴロゴロピシヤン。

びくり、とレオンティウスの動きが一瞬止まった。

「うわああああああん！！」

火が付いた様に泣きだすレオンティウス。スコルピオスの服を掴んだままで。

まだ幼い少年に雷の音は酷だったか。

結局扉を閉める事は諦め、スコルピオスはレオンティウスを抱き締めた。

「えぐ……う……兄様あ……」

「泣くな、レオンティウス……泣くと、私が困る」

困惑顔のスコルピオス。肩の辺りを握り締めるレオンティウスは、涙に濡れた顔を上げた。

全く、我が弟ながら、と手で頬を拭ってやる。

苦笑。溜息。レオンティウスが泣かないように。

大丈夫だ、と言う代わりに抱き締めてやる。

「兄、様……？」

「雷が鳴っていても眠れないのだろうか？ 私と一緒に起きていてやるから、安心しろ」

「……！」

微笑む事はしないけれど、優しさはにじみ出るわけで。

しかし弟は分かる。兄の不器用な優しさを。

「兄様……」

ありがとう、とレオンティウスは笑った。子供特有の無邪気な笑顔で。

その素直さをスコルピオスは心底羨ましいと思う。

自分はもう、なくしてしまったものだ。そして取り戻す事もできないだろう。

束の間、雷を忘れて抱き合う。

「レオンティ」

「……っ！」

しかし心が通じ合いかけた2人を裂く様に、雷の音が響き渡った。また静寂を切り裂いて、レオンティウスの泣き声。

スコルピオスは小さくため息をつきつつ、慣れない様子でまた愛すべき小さな弟をあやし始めた。

「side：スコルピオス」（後書き）

（翌日）

エ「レオン兄様ずるいー！」

ミ「ミーシャも昨日の雷怖かったのに……」

レ「だって……」

ス（……そうだ、他にも弟妹がいた）

ミ「兄様、今度はミーシャと一緒に寝てー！」

ス「……え」

エ「俺も！俺も！！」

レ「やだあ、兄様は私のもだもん！」

ス（……好かれる相手にもよるな、これは……）

スコルピオス兄様は愛されている筈。この不器用さが愛しくて仕方がない。

弟妹達はスコルピ兄様を慕ってると良いと思っつよー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7644m/>

Spark !

2010年10月10日01時09分発行